

2015年度 大学共同研究 研究成果報告書

所属・職・氏名：神学部准教授 岩野祐介

研究課題：「島嶼社会における文化受容・交流に関する研究—平和的關係構築の視点から」

研究期間：2015年4月1日～2016年3月31日

研究成果概要（2,000字程度）

2015年度大学共同研究「島嶼社会における文化受容・交流に関する研究—平和的關係構築の視点から」においては、研究会と調査研修旅行を軸としての研究活動をおこなった。研究会については、合計4回実施しており、いずれも海外から講師を招いての研究会、あるいはメンバーが海外でおこなった調査の報告であることを特に記しておきたい。調査研修旅行については、広島県尾道市、愛媛県今治市を調査対象として行った。

研究会

・第1回研究会 2015年 5月21日

講師 Roy Takumi 先生（アメリカ・ハワイ州議会議員、国際学部客員教員）

場所：吉岡記念館 会議室2

Takumi 先生はアメリカにおける公教育についての専門家であり、日本における公教育のあり方との比較が主なご関心であるとのことであった。Takumi 先生からアメリカにおける公立学校での教育の問題について、特に郷土への愛着やある種の愛国心、民族主義、宗教性等をいかに扱っているかお話いただいたうえで、日本の公立学校でのそれらの問題の扱われ方について情報交換し、相互に理解を深めることができた。

参加：李恩子国際学部教授、田中きく代文学部教授、森田雅也文学部教授、山泰幸人間福祉学部教授、岩野

・第2回研究会 2015年6月26日

講師 黄尚翼先生（ソウル大学医科大学教授）

場所：第一教授研究館 会議室1

黄先生からは、社会における平和や安定と市民の健康の相関関係について、歴史的資料を用いつつ詳細にご講義をいただいた。社会が平和であるために、市民が健康でなければならないのは言うまでもないことだが、改めて戦争や対外的緊張、あるいは他国による支配が市民の健康状態に悪影響を与えるということ、とくに、大日本帝国による統治期と第二次世界大戦、そして朝鮮戦争の影響を受けた韓国の事例を統計的資料と共に提示いただいたことは有意義であ

った。

参加：李、森田、田中、岩野

・第3回研究会 2015 年 10 月 16 日

講師 赤江達也先生（本研究共同研究者、台湾国立高雄第一科技大学助理教授）

場所 吉岡記念館 会議室 2

赤江先生より「内村鑑三の〈ためらい〉——学校・国家・宗教をめぐる——」と題してご発表いただいた。海外から伝来した宗教であるキリスト教を、日本、とくに大日本帝国期において信仰し続けることは時に困難を生じさせるものであった。宗教のような、ある種の文化的専有性（たとえばキリスト教徒でありながら、同時にムスリムであることはあり得ないとされる）をもつものに関して、単純に文化交流が豊かさをもたらす、とは言い切れないことを確認することができた。

参加：岩野、赤江、Roy Takumi、土門稔（関西学院大学大学院神学研究科）、榮巖（同）、渡部和隆（京都大学大学院文学研究科）

・第4回 2015 年 12 月 1 日

報告 李恩子

場所 第一教授研究館 会議室 1

李が 2015 年夏に行ったポナペ島調査について報告した。第二次世界大戦期、日本の南洋諸島統治のため、日本組合教会が海軍省の依頼をうけおこなった南洋伝道が、その後現地のキリスト教に与えた影響について、多数の写真を示しつつ詳細な報告がなされた。ポナペが、現在政治的にはアメリカ合衆国の実質的な支配を受けている一方で、依然として言語など文化的には日本統治期の影響を色濃く残すことを認識し、日本とアメリカ合衆国、日本と韓国・中国・台湾等東アジアとの文化交流同様、日本と南洋との関係性についても意識せねばならないことを知らされるものであった。

参加：李、森田、山、岩野

榮巖、三輪慎吾（神学部学生）、赤松真希（神学部学生）、原田亘（神学部学生）

調査研修旅行 参加 李、森田、田中、岩野

期間 2016 年 3 月 20 日から 22 日

訪問先 瀬戸内海・しまなみ海道の島嶼部（広島県尾道市～愛媛県今治市）

今年度は宗教史・文化史の面からも、また海外との交流という点でも興味深い位置にある瀬戸内海・しまなみ海道の島嶼群を訪れた。具体的に訪問した場所は、下記の通りである。

3 月 20 日 福山市人権平和資料館、鞆の浦

福山市人権平和資料館で、福山地域における太平洋戦争中の被害、および福山や周辺地域での被差別部落に対する取り組みと現状についての知見を得た。その後鞆の浦に移動し、朝鮮通信使応接地である福禅寺の対潮楼を見学した。福禅寺では、他にマリア観音として伝えられている観音像を見ることができたが、係の方のお話によるとその由来ははっきりしないとのことであった。ともあれ、潜伏キリシタンが一定数周辺地域に存在していた可能性を示すものとして興味深い。

3月21日 因島水軍城、大山祇神社、今治市河野美術館、今治市村上水軍博物館

しまなみ海道はかつての村上水軍の勢力範囲と一致する。村上水軍に対しては、しばしば「海賊」という呼称が与えられるが、これは陸の側、あるいは統一政権を構築しようとする側からのネガティブなニュアンスが込められたものであり、現地での歴史的存在感が異なっていることを、因島水軍城（尾道市、因島）および今治市村上水軍博物館の見学を通して確認できた。

一方大山祇神社（大三島）では、宝物館・海事博物館において非常に軍事的色彩の強い物品を展示している。数多く展示されている古くからの参拝者の記念写真においても、軍人や自衛隊・海保関係者が非常に多い。造船や貿易の関係者と比較しても目立っており、神社の側でも軍事との結びつきをアピールしているということでもあると思われる。島嶼社会がもつ二面性を示す事例であると言えるであろう。

3月22日 福山ホロコースト記念館

日本唯一の、ナチスによるホロコーストを記念する施設が福山市に存在するということを知り、訪問した。開設者とオットー・フランク氏（アンネ・フランクの父）との個人的つながりから、福山に開設されたとのことである。実際の書簡類や遺品等も展示されており、教育施設としても重要なものであると感じられた。